



里見八犬傳 第九輯 卷廿二

特
イ 留 4
600
264



600
264

南總里見八犬傳第九輯卷之二十一

東都 曲亭主人編次

第一百回 金碗後無一々更さら後あり



登時義美主、大法師より向て和尚具ぐ所しよを聞き、我這八箇の天氏てんしを、金碗きんわん氏の後とて、和僧わそうの義子ぎしを、做しさへ、與よ親兵衛しんべゑと十一郎じゅういちろうを、則すなはち京師きやうし遣つかへ、室町殿むろまちどの告つ票ひょう、朝廷てうていの勅免てくめんを請こまう。他ほか們らが、姓氏しんせいを改あらため、欲ほむ、を便べん宜ぎ折せられ、和僧わそうも、俱とも上落じやうらくと、功課こうかを奏そうし、請こまう。紫衣むらさきぎ最上もへ僧官そうくわんも、いふが、さうさへ、その財用さいよう、我われ安房殿あはらどの請こて、宜よろ計けいと、同意どういを、うが、仔細しじゆ及およ逆旅ぎやくりょの準備じゆんび、いふが、甚い麼やを、と、問とふ。大おほ遠とほく、席せきを、避さて、徐しゆ々々告つ票ひょうを、まう。最も有ある、迄いたまで、忝かたじけなし、御ご錠じやう、いふ、不肖ふせうの臣僧しんそう、刑餘けいよの身みを、て、非たが如ごと功こうあれ、と、八や八はち具ぐ足たりの諸しよ大士だいしの姓しやうを、改あらため、氏しを、更あらため、金碗きんわん氏しを、冒をかさ、せ、隨したがふ、と、糞ふん土ど埋うめめ、蜀錦しやくきんを、り、敗

夜の裏の傲をふひとふひむ。恣意なき恩命を否するに似て不敬の事を免れず。此の然佛の教の
 塵世に脱れて後生を本意とて言わさるるにても臣僧少なり。時幸ひ必死の罪と宥られく
 遂に佛に入り。只報恩の爲め。現世に則ち御武運長久來世に先靈正覺の念々日夜間断
 る。身を雲水に儘したる千餘年抖擻行脚の宿望を成し。罪障恩赦の召を心して
 故郷返ることを望み足るに猶寸功を賞せられて御香華院の寺職に預り。國內の道俗の
 尊信せられ。及て本意の如く然りと知れ。京師に詣り官職を請ふ。開き那渡世の家。度
 世の意の如く愚意始より如く名利を欲せ。子孫を思ふ。然るに延命寺の住職に傲あり。當日
 より推辭せむべし。義烈院殿と御改葬の言を。是非及び姑且御意に隨ふ。寺
 職の久恋の園あり。寔に浮世の法師に並て欲する大判の住職も厭はれ。況や家相心か
 らぬ義子と求めて何せん。畢竟亡父孝言あり。昔の大判の虚く有り。惜く思召す。御仁慈
 ありとも。獨陪臣より者の姓氏の願ひ。天聴と驚き。物体をいふ。最に。

件ことのこと計けいひひ出家しゅつがの本意ほんいををいいははぶぶ。お美迷うつくしみ惑ごははりりぬぬ。憚おそるる所ところもも、稟まうああららぶぶ。義実王ぎじつおうのの景けいももまでまで、
 原来げんらい主意しゆい違ちがひひありありとと、咥くはひひままるる義成王ぎせいうおうとと、仇あだととなりなりぬぬ。義成ぎせうををききままるるてて、大だいをを論ろんししぬぬ。
 ちちうう。和僧わそうのの意見いけんはは寂滅じやくめつををりり。樂がくはは做しよととなりなり。即すなはちち出家しゅつがのの真面目まへめいをを、仍なほひひ於おここるる事ことををもも、儒にうのの道みち
 りりくく論ろんせせばば、後のちをを不孝ふこうとと、縱たとええもも、出家しゅつがのの功徳くどくよりよりてて、九族きゅうしやく升あがるるもも、子孫しそん是こゝよりより断絶だんせつとと、先祖せんそのの
 為ためにに孝こうををせせぬぬ人ひと、是こゝをを羨うらやみみぬぬ。佛ぶつ説せつ儒教にうきやうをを、方異はういととなりなり。佛ぶつ極樂ごくらく淨土じやうどとと、誨おしええ、儒にうはは則すなはちち樂がくをを極ごく
 むむずずとと教しよええるる。佛ぶつのの所云しよふん樂がくはは則すなはちち寂滅じやくめつ為ため樂がくのの美み也や。夜臺やたい就つてて淨土じやうどとと、儒にうのの所云しよふん樂がくはは然しかのの
 快樂くわくらく也や。その指さしし所ところ同どうととなりなりぬぬ。又また我われ大皇國たいかうこくのの神かみのの教しよをを忘わすれれてて、生なまをを喜よろこぶぶ。世々よよをを子孫しそん相續さうじよくをを守まもららぬぬ。
 せせぬぬ。お家いへににははれれぬぬ。或あるはは不幸ふこうゆゆてて子孫しそんをを絶たええりり。或あるはは亦また生憎なまにくととなりなり。ああららううもも、其その理ことわりををりりくくとと、
 補おぎなひひ養嗣やうしをを、那家かのいへとと絶たええりり。ああららううもも、先祖せんそのの與よにに不孝ふこうのの罪つとめをを免ゆるぐぐ。且かつその宅やうをを離散りさんとと、他たへへにに
 富ふるるのの真愛まあいひひすす。徒ただにに理義りぎをを思おもふふ。和僧わそうああららううもも、れれとと年とし來きた佛ぶつ法はふ修しゆのの身みををりりくく。今いまあらあらうう八はち十じゆ、
 義父ぎふとと仰おほれれ。義子ぎしとと稱なづけけ。世々よよをを父ふららぬぬをを、羞はづかかしくくとと論ろんせせるる。中なかつににああららううもも、今いまあらあらううもも、尚なほせんせん術じゆつありあり。

八土之和僧の乾見かせ。金碗氏を冒さる。皆孝吉の名迹也。和僧の上より下へ。這設穩
る。然歟。那結城。淨西父子の忠孝も。幸中。彼て出家を。子孫永断絶せ。亦
天命なりとも。誰を惜く思ひ。上より。思召せ。那身。他領の法師也。且影西僧
正。彼登る。果報。一せ。福。天。道。盈。之。缺。之。花。美。に。樹。実。如。和僧
他。同。八。氏。宿。因。あり。先。父。八。郎。の。名。迹。なり。和僧の。與。親。族。なり。
と。い。ふ。事。也。又。今。番。大。江。親。兵。衛。門。を。京。師。使。遣。一。姓。氏。の。一。名。の。事。也。知。る。
安。房。上。總。一。隅。之。方。都。大。洋。を。一。箇。の。口。も。像。く。因。る。成。る。不。易。
找。と。遠。く。攻。る。難。り。の。故。東。諸。國。の。風。俗。虚。実。を。知。る。由。り。況。京。師。之。仁。以。來。室。町。
家。武。威。衰。へ。昔。の。似。せ。る。人。の。噂。する。今。の。光。景。其。る。親。く。觀。る。事。也。
誰。具。是。を。知。る。然。今。番。親。兵。衛。を。京。師。使。遣。あ。り。那。地。の。虚。実。を。目。撃。せ。ば。且。
年。來。の。兵。亂。で。朝。廷。の。御。料。大。き。く。關。之。ゆ。え。あ。れ。陽。出。則。大。士。の。氏。を。金。碗。氏。に。欲。

奏請の一。到。れ。陰。謀。件。の。兩。椿。事。兼。さ。る。御。内。意。多。く。和。僧。の。悟。り。以。て。多。
所。を。論。さ。る。事。也。あ。る。事。也。あ。る。事。也。四。下。の。忠。人。を。明。地。告。る。釋。迦。法。
語。似。て。然。烏。海。を。笑。ひ。て。下。の。情。を。示。し。大。法。師。の。感。涙。の。找。と。覺。且。恥。下。
難。う。り。程。側。面。一。八。大。士。照。文。中。亦。兩。館。の。慈。愛。忠。信。並。せ。世。の。易。く。と。兵。侶。の。感。心。貴。
る。り。當。下。大。の。謹。義。成。王。亦。京。師。短。才。法。智。測。り。か。賢。慮。と。否。と。云。と。論。し。
一。不。敬。の。罪。萬。死。も。當。る。事。也。論。さ。る。事。也。感。服。仕。ぬ。臣。僧。愚。く。僧。家。の。祇。
律。違。ふ。と。敢。て。況。火。宅。と。脱。れ。身。を。義。我。に。な。れ。と。恥。に。誰。り。美。なり。か。り。又。趣。
易。さ。ぬ。八。大。士。を。孝。吉。の。名。迹。と。金。碗。氏。を。再。度。の。仰。い。御。慈。愛。多。く。枯。骨。及。べ。
是。何。の。造。化。を。真。加。餘。の。事。と。天。と。一。感。涙。の。外。に。然。六。金。碗。氏。者。一。人。也。足。る。は。
八。土。都。て。同。様。多。く。亦。御。深。意。と。あ。る。事。也。凡。智。者。精。一。の。別。亦。室。町。殿。の。御。内。意。を。
實。に。察。せ。れ。計。を。し。然。り。と。思。ひ。多。く。賢。能。を。似。而。非。直。言。に。畏。る。事。也。身。を。措。く。

處るに失敬の罪と饒きものと勸解言来と稟あふ義成王の然らばやと義実屋點頭して
 安房殿微妙も計ひの故令ふ承命寺の願ひ隨意八十八氏を冒すも義父義子の誡に閣く
 諸大氏も俱ふやれ我々汝等をもて金碗氏と冒せしむ欲きより惟創業の功臣なる八郎孝言
 與のるに抑當國二郡の舊主神餘長被ひ光弘の管轄暗愚の本性なる然逆臣定包不執
 せれて那家断絶ありし幸ふと光弘の落胤とせしむる愚妄不弘せありといふも亦枉弱
 病れの生涯事垂るはべの故か大師宿因の八十六と金碗氏に倣ふと弘世八嗣子ありと
 一世を終ると光弘の名迹の當國に送る下是孝吉の素懷也絶々継ぐ廢れし自さる
 欲い義実が本意と开と詳解は然神餘金碗同宗也神餘則和名鈔安房國安房
 郡の御名の條下おとそ加無乃安萬里と訓し有はれ神餘の當初のありと唱へて後
 世なるより略稱し後又字音の便利の儘してんよとも喚做さ然金碗神餘也又金鞠
 作るもあり其神餘の假字あり同宗と知るに足れりその名迹と二人ありて八郎都て課する

是同因因果の。誰と二人抜出と課まらるるべし。可惜大主は他姓と紹と。瓊は疵ある心地を
 とらる者。本と恵と。因果の當有。悠るる天命多し。知らるる什麼。八も同意ある。と向せぬ。公
 道。即ち自餘の大主も異口同様。皆答稟する。既不稟上。と云。臣等。各所生。父母あり。終
 將軍大諸侯の。兒徵は。いとも。名利の與。他姓と冒。と他人の螟蛉。を假る。といひ。いとも。大師の。なり。宿
 世あり。と悟る。なり。と。義子。なり。と。數り。と。況る。義と。能。り。と。姓氏。の一。と。さ。と。何。不。又。異。謀。を
 左。も。右。も。も。命。の。隨。意。從。ひ。と。と。亦。未。だ。言。言。兼。ふ。義。実。主。統。び。て。大。法。師。の。宣。す。寺。ま
 情。願。障。り。と。内。談。の。稍。整。ま。る。和。僧。ハ。亦。何。の。故。也。僧。官。を。好。と。せ。ば。來。命。寺。の。住。職。を。と。と
 辭。ふ。一。切。の。の。と。誅。の。あ。べ。大。答。然。い。釋。氏。の。教。い。と。食。あ。て。名。利。の。街。衢。は。遠。離。る。と。勉
 と。と。今。ふ。和。漢。中。無。き。僧。官。を。置。格。式。と。定。め。寺。領。坊。料。許。す。と。寄。甚。の。徒。の。慾。心。と。肥。と
 是。の。け。魔。障。迷。ふ。法。師。ハ。名。利。の。取。は。る。と。寂。滅。の。教。と。守。る。者。罕。と。臣。僧。愚。かり。て。か。の。徒。の。富
 貴。榮。達。を。羨。む。迹。を。富。山。の。洞。窟。に。潛。め。て。伏。姬。上。の。兒。菩。提。を。吊。も。と。思。ふ。と。事。證。ハ。い。身

比隣り多士門と代四郎と知れぬ。尋ねるなり疑ひを解せり。其時大士門は
 當夏五月某の日富山より姫上の墳墓詣り折、大法師が七日斷食讀經日夜の勤行箇
 様々ふいぬ。その崖を報喜せ義実主駭嘆と現達寺の忠誠なる御宗神佛鮮
 居の冥助あり。その時、然るも今要退院へ饒かざる。其麻と相譚いふ。義成主
 沈吟と仰る。三稜以来微難なる名僧を、大法師が代る知識中と覺え然り
 寺主禪を後住あり。その時、大士門は否との義聊も心當る。那結城家
 影西の心術忠孝を當家より舊縁より後住せざる思ふ。他師家の微小なる權僧
 正の頭職を愛惜せざる。彼相せざる。必辭して参る。下那影西を除く。外木一
 人いふ。年二十ふ。足され。只今借る。此是別人を。臣僧甲斐の石木を。指月院に在
 時念成と喚ぶ。件の寺の小僧。他料金。淡雪奈西郎と。婦名鬼が奸計の密談を
 聞き濱路姫の御危難と忠告仕り。者れ當家の功あり。只這椿事の事と

一を。二。三。知る。敏才。其偽。且心術老實。然。草酒魚肉を嫌ふ。勉め。其。自
 然の性。い。教。善智識。多。其。石木。脚力。遣。指月院の現任
 件の念成を徵め。現任の惜氣。其。那身の特。脚力と俱。参。學寮。在。あ
 之。教育。仕。今。十。法燈。紹。足。其。素生。原。故。御。上
 總國望陀郡大成村。同。村。浪人。某。甲。獨子。二。親。世。去。孤兒。ふ。さ。せ
 親族。其。由。縁。就。甲。斐。赴。年。七。の時。秋。指月院の。前。住。弟子。其。者。ふ。其。天
 成。念。成。と。名。詮。以。あ。け。原。是。御。領。の。民。子。其。延。命。寺。の。第。二。世。相。心。い。む。と。五。十
 報。喜。と。稱。候。と。う。所。奇。也。と。稱。え。側。聞。信。乃。道。節。照。本。亦。相。識。多。件。の。小。僧。念。成。
 素。生。始。て。解。示。其。俱。奇。耦。感。は。登。時。又。義。実。主。大。法。師。宣。言。す。其。念。成。
 畢竟。和。僧。の。法。燈。と。紹。る。舊。縁。中。然。も。他。尚。少。年。と。和。僧。今。十。年。許。退。院。の。望。斷。勿
 論。暇。あ。り。折。富。山。錢。目。龍。と。開。我。知。と。あ。り。我。和。僧。の。望。儘。と。義。父。義。子。の。義。罷。れ。

和僧亦我望儘て今より任職十箇年の勤い果ねか。と仰ふ。大い額汗て最も惶然御懇
 命然き厚に御教諭を待りて。勸解を兼休あらう。義成主も然じて。思ひ
 いり。權早て、大法師。大士身邊。膝を拭いて。君命より金碗氏を冒さる。欽びと云ふ。舒々
 大士の事を所て。御道師。京より。大徳の。咱們。宿世の親。今生の師。表す。義子。と云ふ。饒
 され。師父と稱ひ。め。の。多。義成。か。と云ふ。大い。欽び。て。否。和殿。建。我。在。俗。の。親。族。と。そ
 思ふ。れ。師父。と。稱。過。う。と。述。の。辭。讓。美。く。言。真。俗。一。家。の。約。束。俱。は。意。做。者。が。義。実
 主。の。怡。悦。堪。む。我。退。隱。の。始。の。政。事。安。房。殿。の。任。と。助。言。せ。る。も。大。氏。の。上。の。我。外。孫。の。思
 ひ。あ。れ。有。數。心。許。て。の。席。の。列。の。親。兵。衛。十。郎。們。を。京。師。へ。遣。て。件。の。使。の。二。椿。事。異
 日。必。稻。村。の。家。老。毎。と。詮。議。の。上。吟。明。ら。お。あ。る。を。今。日。も。内。談。の。皆。の。言。は。る。か
 と。と。町。寧。の。ら。の。さ。と。軀。て。暇。を。賜。ひ。大。並。八。大。士。俱。欽。び。を。京。師。へ。宿。所。退。の。義。成。主
 稻。村。の。城。還。り。せ。る。い。け。の。日。の。潜。ひ。の。と。伴。當。常。の。言。は。る。も。騎。馬。の。い。を。の。か。も。路。近。う

36

ね。見。消。し。と。の。宵。恙。を。歸。城。の。次。の。日。龍。田。の。是。より。五。月。と。經。て。大。江。親。兵。衛。仁。と。發
 崎。上。郎。照。文。を。稻。村。の。城。へ。召。よ。め。兩。家。老。辰。相。清。澄。正。廳。の。列。半。と。今。番。件。の。兩。人。を。使。て
 京。師。へ。遣。て。上。と。傳。達。を。當。下。辰。相。云。う。件。の。一。義。龍。田。殿。の。御。内。意。不。儘。せ。れ。大。氏。の。毎
 氏。を。齊。一。改。め。て。皆。金。碗。の。做。を。と。室。町。殿。請。せ。る。朝。廷。並。花。堂。奉。獻。の。金。金。言
 へ。齋。遣。る。今。や。戰。國。割。据。の。諸。侯。各。新。の。圖。を。構。て。必。路。不。便。の。事。も。信。れ。水。路。を。浪
 花。に。到。ら。輒。く。京。師。達。來。遮。莫。伴。當。う。の。人。の。疑。ひ。あ。る。も。東。西。を。持。て。夫。役。と。い。ふ
 五。十。名。の。涯。る。近。曾。の。緑。林。錦。帆。動。ま。れ。白。晝。旅。客。を。脅。て。盤。纏。を。奪。略。る。の。風。聲
 あり。進。退。俱。不。心。を。て。武。勇。の。負。び。但。親。兵。衛。の。身。材。既。に。大。人。備。て。智。力。萬。夫。不。捷。れ
 とも。の。生。年。九。歳。多。ふ。傳。達。の。使。の。相。心。と。と。の。者。も。あ。る。欽。び。を。請。う。依。る。を。ひ
 とも。老。侯。の。御。意。を。館。の。應。へ。思。召。さ。る。京。師。へ。參。り。管。領。家。中。の。倘。そ。の。年。才。を。向。け。一。倍
 まで。十八。歳。と。さ。る。を。と。め。れ。是。も。亦。人。の。疑。を。避。る。一。柵。を。れ。十二。郎。の。故。親。兵。衛。と。相

37

手。傳。へ。行。く。と。醸。を。逆。旅。の。准。備。に。目。を。渡。り。と。ま。り。發。船。を。致。し。と。町。寧。云。渡。る。悠。副。之。傳。へ。行。く。と。醸。を。逆。旅。の。准。備。に。目。を。渡。り。と。ま。り。發。船。を。致。し。と。町。寧。云。渡。る。悠。而。の。日。親。兵。衛。と。照。文。の。義。成。主。見。參。上。都。の。然。り。と。稟。一。萬。金。並。時。服。を。賜。と。且。兩。茶。の。礼。を。納。り。と。後。左。右。退。り。と。義。成。が。仰。示。さ。る。旨。を。親。兵。衛。に。告。げ。果。て。照。文。と。共。侶。の。宵。滿。野。宿。所。退。り。と。七。個。の。義。兄。弟。妙。真。代。四。郎。音。吉。の。件。の。と。告。知。さ。る。代。四。郎。望。み。失。ひ。て。大。江。和。子。の。り。も。富。山。以。來。の。折。々。小。可。も。亦。仰。と。受。で。必。從。ひ。り。今。番。違。は。京。師。と。交。使。の。達。り。ぬ。る。の。伴。當。小。可。を。漏。れ。い。其。麼。多。故。を。諸。君。の。義。を。歩。を。あ。は。て。望。遂。さ。ぬ。ぬ。と。親。兵。衛。請。ひ。道。節。們。告。て。仍。り。欲。ま。れ。と。道。節。敢。諾。を。開。け。亦。要。願。候。大。江。則。正。使。登。崎。の。副。で。事。足。る。ぬ。と。和。王。文。遣。さ。れ。何。せ。且。這。回。の。使。を。老。候。の。御。意。より。擇。せ。ぬ。二。人。あ。れ。我。們。と。も。私。情。を。陳。て。相。爭。さ。ぬ。ぬ。況。和。主。の。い。ぬ。比。更。多。時。退。り。と。老。頭。へ。と。仰。を。承。る。ぬ。然。る。老。人。相。忘。れ。ぬ。名。聞。を。好。む。似。る。願。ひ。誰。と。執。接。ぬ。元。枉。思。ひ。住。ま。ぬ。と。論。其。親。兵。衛。自。餘。の。天。士。も。共。侶。の。諫。候。

か。阿。叟。の。情。願。所。以。る。は。わ。ね。ぬ。尚。是。餘。日。あ。る。願。ひ。宣。を。便。宜。と。し。て。然。る。緩。急。を。暇。多。既。後。日。と。定。め。ら。れ。る。用。船。と。今。り。爭。何。せ。這。回。と。且。大。山。の。意。見。が。就。く。と。さ。ゆ。め。れ。と。言。語。片。一。慰。れ。代。四。郎。答。ぬ。眼。を。睜。り。と。老。を。さ。る。ぬ。朽。惜。ぬ。ぬ。年。齡。既。七。旬。と。遠。く。も。あ。れ。做。り。か。ど。筋。力。奔。走。甲。有。れ。と。後。生。達。少。々。開。き。安。閑。と。日。と。弥。れ。反。々。病。者。あ。る。と。使。せ。ぬ。ぬ。と。本。意。を。ぬ。と。う。い。は。れ。ぬ。術。の。ぬ。大。家。笑。ひ。紛。ら。ぬ。更。別。話。及。び。り。然。れ。姥。雪。代。四。郎。當。晚。宿。所。不。還。り。と。心。連。り。焦。燥。で。寐。れ。ぬ。隨。思。ふ。我。原。是。微。賤。の。足。夫。大。山。主。の。舊。僕。多。く。過。分。と。兩。館。の。執。立。不。遇。さ。る。と。侍。品。數。ま。ら。れ。傷。及。宅。養。と。養。ひ。ぬ。只。徒。不。坐。と。嘆。き。這。回。の。御。用。不。達。ぬ。と。あ。は。位。素。食。と。七。人。あ。ら。れ。ぬ。登。崎。主。の。直。塚。紀。二。六。と。心。利。の。伴。若。黨。あ。る。大。江。主。と。然。る。伴。當。多。く。守。の。仰。あ。る。と。我。那。和。子。の。伴。侍。不。做。り。と。京。師。不。赴。と。萬。一。事。あ。る。折。一。臂。の。帮。助。不。做。り。と。伏。姫。神。の。神。慮。も。稱。と。我。本。來。の。志。を。致。さ。れ。大。山。主。の。隊。不。隸。と。軍。陣。不。忠。を。盡。す。大。江。和。子。の。伴。不。

達て他郷を憂ふ分えも皆是館の如く先邁する身を幾ま存命て世を立んと後の
 便宜を思ふにせぬと。肚裏に主意意を決りければ親兵衛門が用船の朝時分を揃り先
 ちて音音曳る單即們の大江釜崎の起る馬頭上を送ると偽の身装し宿所を出て
 走りて港口に赴く。尚黎明の時候にて用船の今日已牌と當工們が豫定り親兵衛照
 文們の登る登時代四郎の汀渚に遠く船公を喚出せ我大江主の伴當必要あ
 りと云々疾疾の船に乗せよと。船公隨即る船板を架渡を卒と船を載りけり。
 是國主の軍用る船三百石の巨船を主倉前倉船後あり。桅杆桅緯の堅固る舵錨
 楫櫓の類大達小達百と。一切備らざる者。船公一名舵師一名當工十餘
 名。船一々。這里に在る左右の程の稲村の城より。大江釜崎の伴の親兵衛十名許宰領の
 雑色們と俱に苞裏の長韓櫃幾杆役を昇り港口に來て溪鼠を喚び伴の船一個行
 櫓物を載ると事紛れ代四郎の船荷の隙に船に息を籠と在り。親兵衛宰領

們は是を知船公も亦忘れず。船に乗る親兵衛門の一人あり。告りける。今程大江親
 兵衛の京師へ發船の前日。延喜寺の文と共侶の義実手見参りて身の暇を喜ぶ。大
 母妙真燒雪一家七大夫。今宵稻村の城に赴きて朝廷並室家全を。金銀
 方物を受令て翌朝船に載りて去向。遙け旅の如く。妙真の親兵衛が魔城
 降。賊と云はる。本事の如く。哀別先度の如く。倒し慰めけり。悠而の目信乃毛
 野道節。小文吾莊介。現八大角們的七大夫。親兵衛が與置酒御食饌して俱起り。
 壽終り。登時小文吾莊介。金抗て先親兵衛を屠りて。仁听ね今。俱に館に仕る。
 明日馬頭上。赴きて柳を統ね。伏し。解別の情を盡か。る。あ。い。ま。あ。わ。ね。と。今
 戦世の悲し。海陸共強人。多て。旅の客の。思ひ。を。做。す。の。並。四。船。虫。酒。顛。二。遍。内。跡。六
 數人の。と。和。郎。今。番。の。使。使。の。金。多。と。豫。を。御。沙。汰。れ。と。小。心。を。宗
 と。と。武。勇。員。と。和。郎。の。選。古。景。行。天。皇。の。時。武。内。宿。祿。年。十

危く云孔子語道と和殿萬事神々伏姫神の示現也知るる多き素より臨
機応変才匠なるを頼る所館の憑り思召さるる信道を賢達意見の要るに贅言
る智者の千慮の一失の愚者も一得多き小父の教諭を心占て行なふ譲りぬと示
ま親兵衛を聴て小父公並大飼主の示教実千金古の有道者人を送る言とせと
あゝの美ひひ面教共肝胆銘と忘れぬと心なれ信乃毛野道節莊々大角各餘
談し盡る俱ふ孟と献酬と一霎時刻惜り有り程照文の若黨真塚紀云を
親兵衛を催促と稲村へ参る時分宜と報ふ親兵衛の遠く大末告別と給供の内
中西三名稲村まで従ひ來りて身装り立止却照文と共侶稲村の城へ参り辰相清澄
面談して兩管領政氏呈書一通並貢献の金子禁裡御所へ千両室町殿へ千両東山殿
へ千両兩管領へ白銀各五百兩の餘損家槐門諸司百寮へ金銀土宜の人情多き徳而當
城の有司們這件を上坐安排都て目録援合と三十箇の長韓櫃小斂めて親兵衛小

と

遊興しけり是より親兵衛と照文と饌を賜りて當廳止宿と許さる船船明日の初刻
潮候風信共宜なる船分原より伴當又役下知事從事の上下九十餘名の内
中親兵衛が伴當究責の夥兵十名雜色奴隸五名又照文の伴當十名長韓櫃の宰領五名
主役六十餘名餘而夜の果敢り明て主僕の早飯果る隨即貞調の長櫃横須賀の
程遠る船の港只拾ふと親兵衛並照文主僕も推續し船に乗る由田親戸賀九郎逸
時と屋屋八郎景能の面家老訴免許を経て俱港口まで送りて他們は親兵衛受
たる恩義あれは餘瀛田より稲村より松の旅る船發船され憚りて送る者あり折る
追風より船が隨即真帆賜てる目相模灘十數里を安らふ走り伊豆下由歇のり余
程の親兵衛の夜泊の徒然と慰難て照文と甲乙の噂を語り語次那田親吉屋を今朝巷
口まで送りし甚麼を嫌雪の昨日の今日も約束他咱們と同船と京師へ参り欲せしか
大山も自餘の義兄弟もあると禁じ恨るるを承りて詞を託らば代四郎彦



お小あき波
乃そねる神
の石も志屋の
ひさまわられ
み汁に
玄同

い。名告。突然。船荷の陰より。親兵衛。昭文の驚き。あ。什麼。何。顔。自。成。代。四。郎。合。笑。あ。と。傷。あ。と。刀。松。達。然。き。不。訝。あ。今。番。の。伴。達。は。皆。情。願。で。あ。り。か。苗。様。を。計。で。今。朝。風。を。船。は。乗。り。願。は。れ。り。あ。の。後。は。守。は。れ。り。あ。の。家。の。軍。小。可。が。上。あ。り。決。と。連。累。き。い。い。い。伴。ひ。の。ね。と。請。求。あ。り。已。に。親。兵。衛。も。昭。文。も。這。罷。難。る。老。人。の。義。侠。の。愛。を。意。感。し。只。得。望。不。儘。せ。代。四。郎。は。大。き。く。是。より。親。兵。衛。の。伴。侍。と。自。稱。し。直。塚。紀。三。同。様。の。各。々。の。主。仕。で。俱。お。徒。然。を。慰。め。り。話。分。兩。頭。の。自。瀧。田。城。内。の。音。音。曳。の。軍。節。們。代。四。郎。が。親。兵。衛。の。用。船。と。港。口。を。送。る。と。その。時。天。は。出。づ。あ。の。次。の。日。を。あ。の。あ。り。か。只。顧。疑。い。訝。り。妙。真。は。告。て。ち。相。譚。ふ。妙。真。も。亦。思。ひ。難。て。俱。お。七。大。士。を。告。て。意。見。を。問。ふ。道。節。を。あ。の。所。原。来。代。四。郎。が。那。情。願。と。果。え。と。親。兵。衛。們。を。哄。誘。て。俱。お。船。を。ち。乗。り。京。師。へ。赴。け。る。あ。の。あ。り。か。その。故。箇。様。々。如。此。々。の。あ。の。あ。り。か。と。御。前。代。四。郎。が。所。望。の。一。義。を。道。節。並。は。自。餘。大。士。も。禁。め

禁

披露。せ。代。四。郎。宿。望。遣。る。方。を。計。り。那。船。を。ち。乗。り。親。兵。衛。們。と。共。侶。の。京。師。へ。赴。け。る。と。思。ふ。據。を。詳。し。鮮。示。し。二。個。の。奴。隷。の。吟。附。て。件。の。港。口。遣。と。船。公。許。尋。問。せ。果。し。て。の。実。情。を。七。大。士。商。量。せ。代。四。郎。の。身。は。二。個。の。孫。男。の。後。見。と。退。り。老。頭。と。御。誼。を。養。ふ。者。也。非。如。半。年。三。箇。月。隠。し。宣。し。上。と。も。口。を。あ。り。か。れ。然。し。そ。那。儘。の。ち。捨。捨。後。暗。に。怠。慢。の。罪。免。る。と。先。老。侯。を。告。あ。り。か。下。知。依。る。と。隨。即。東。峯。前。三。と。小。水。門。目。小。の。名。を。告。て。悄。地。に。旨。を。伺。ひ。小。義。実。の。名。を。告。あ。り。か。ち。點。頭。し。宣。す。現。代。四。郎。の。富。山。六。松。親。兵。衛。守。冊。に。恩。義。深。き。者。な。れ。他。が。助。助。する。と。破。露。せ。違。法。の。罪。義。俠。鯉。忠。然。も。あ。り。か。あ。れ。も。許。可。な。京。師。使。の。伴。達。は。宿。所。に。在。る。と。破。露。せ。違。法。の。罪。爭。何。い。え。好。く。そ。と。せん。術。の。我。吟。附。て。遣。り。と。後。難。き。下。稻。村。へ。目。参。り。安。房。殿。箇。様。々。と。予。口。狀。を。あ。り。か。家。老。毎。も。あ。り。か。と。萌。六。七。大。士。們。悄。地。に。の。名。を。告。あ。り。か。代。四。郎。が。妻。も。媳。婦。も。胸。安。き。あ。り。か。と。秘。し。め。よ。と。悄。々。と。仰。示。さ。せ。の。と。萌。六。目。の。果。て

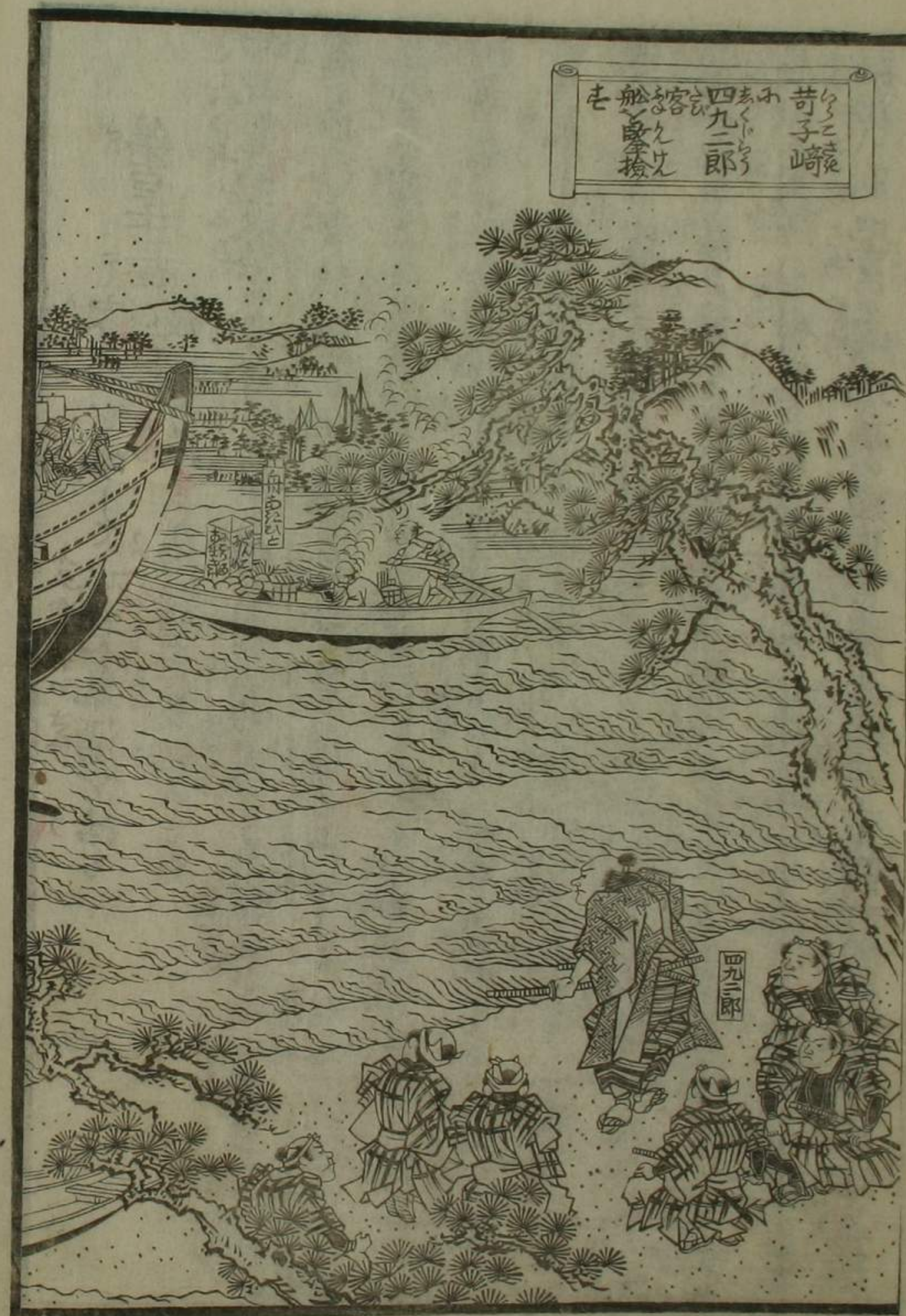
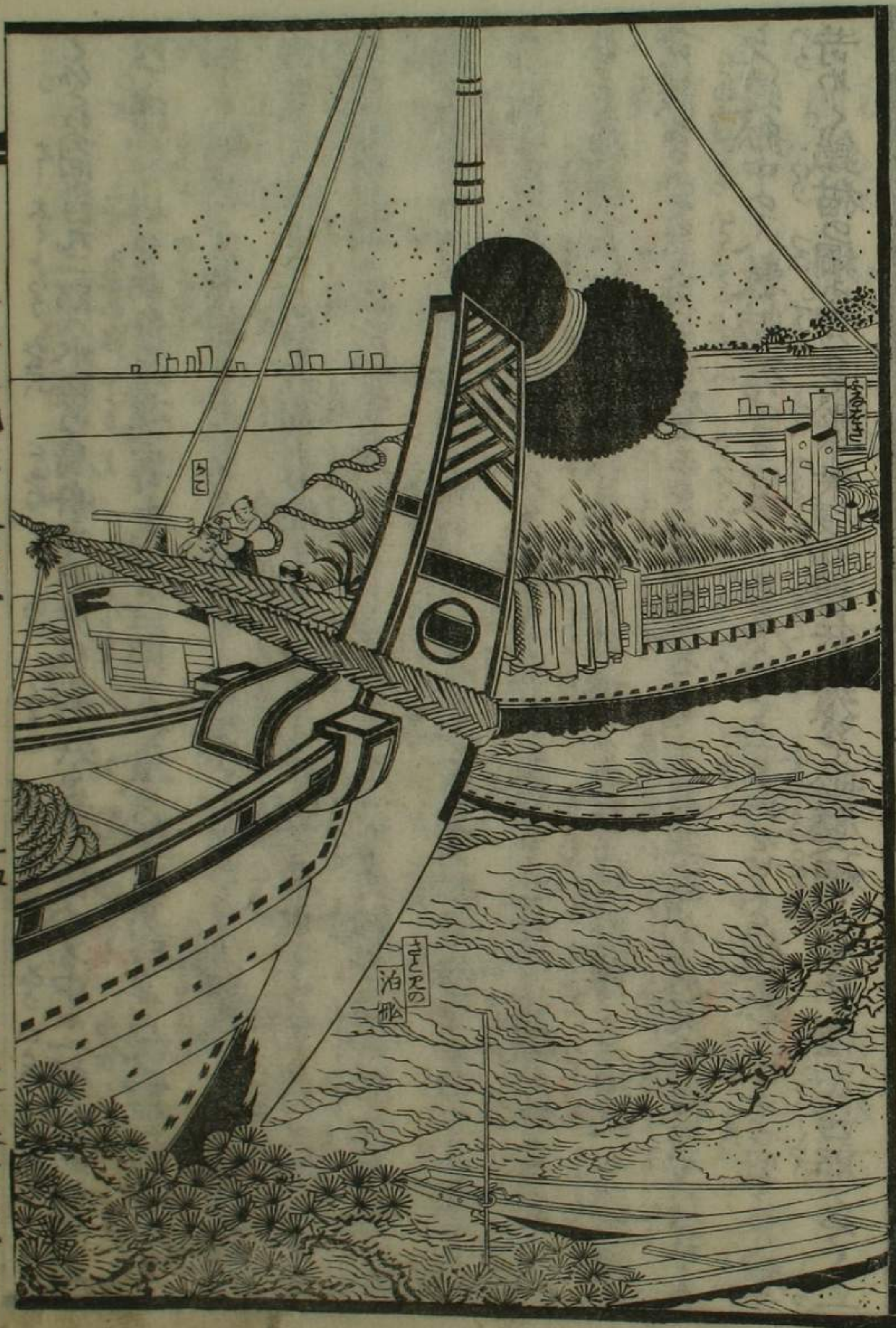
苗

月

儀の如く計りて代四郎の法度し犯て及て違法の祟多義成主代四郎が老て且健多今番も
京師後事の加役と幾奇特と思召し。折るやあ然道節小文吾們信乃毛野莊介現
八大角も件の内意と兼りて誰か感佩せざる大家俱ひけり。今やあ面君侯の仁心慈母
勝りぬ。傳君の如く事あら折命と捨て報恩謝徳不足さべしと稱を軀て音音們
件のうと報知れ音音はる曳半車節も感涙坐吐く。傳君所の方向ひて伏拜し又伏
む然に涯のうりけり當下音音は道節と小文吾們談き大活大母御も親兵衛主代四郎
船も乗せてそ終京師へ伴ひぬ。さういふ実事多急慢の罪をばやと思ひ過し額を病
あてあやもあそ在走那御仁慈の秘事多。大江の刀自の知事とけり。あはれはと。同く道
節はあき井を勿論のふ。さういふ安心をさし許き音音はる。皆門の方より妙真の宿所
赴對面して件の首尾を箇様々と具示其妙真も真愛を轉せ。妙真の夢とる驚きで
思ひける。而館の天地ひと。御恩多。且感。且。仰。傳。折。折。脆。脆。老。女。の。涙。之。案。下。再。説。介



程の大江親兵衛們が乗る巨船。下田の港。只一夕歇り。又西三日の程。遠江灘をうら過て。之河の
洋を走る折風四極可吹。泰れて危なり。され。當。當。松。師。們。相。罵。力。を。勳。而。押。れ。船。と。奇。子
崎。河。の。小。敷。松。住。り。の。時。七。月。下。旬。な。れ。朝。夕。冷。熱。定。む。遂。に。連。霖。あ。り。船。を。遣。る。危
便。着。る。り。人。み。旅。泊。の。徒。然。堪。え。道。黒。伊。勢。志。摩。の。商。船。の。東。海。へ。赴。折。必。船。歇。き
港。口。な。れ。昔。の。泊。船。勘。う。さ。あ。り。馬。頭。上。十。餘。許。の。回。り。土。妓。遊。女。と。言。さ。る。客。店。の。あ。り
る。酒。肆。餅。師。種。々。の。經。紀。見。輻。湊。な。り。應。仁。以。降。諸。國。の。蝸。角。虫。蜀。の。閑。戦。間。断。る
て。兵。士。十。箇。年。を。り。程。名。邑。都。會。も。荒。果。て。狐。兔。の。栖。る。所。稀。に。然。に。這。奇。子。崎。も
昔。の。似。を。鑑。を。宿。も。船。も。な。れ。港。口。の。町。の。迹。も。今。の。絶。た。五。六。箇。の。延。見。の。女。達。屋。と。れ。あ。る。の。の。故。に
且。自。然。に。這。里。小。風。と。な。る。船。で。倘。酒。を。沽。ひ。餅。を。買。ひ。欲。れ。陸。を。登。り。て。路。遙。る。山。田。原。奥
郡。の。山。々。の。あ。る。と。な。る。の。の。折。奇。子。崎。の。鐵。橋。を。宿。て。雲。舟。の
第。一。船。と。の。親。兵。衛。們。を。除。く。外。二十。石。許。の。一。艘。の。運。艦。這。港。口。に。在。る。の。の。它。の。島。嶼。の



いふ。さういふ。四九二郎。水際の扁舟。うち乗れ。夥兵。都て従ふ。中。一個。置敷。解
 いて。漕。舟。件。の。商。舟。の。邊。寄。れ。四九二郎。も。横。船。て。乗。移。り。て。從。夥。兵。之。四。各。下。
 知。し。舳。櫓。を。展。檢。る。ふ。の。う。ろ。ろ。合。し。疑。へ。く。あ。ら。う。大。緊。檢。し。う。ち。點。頭。好。
 好。若。們。の。障。り。を。幾。れ。隨。意。船。を。せ。と。言。示。し。又。故。の。扁。舟。うち。乗。り。杆。を。操。し。更。ふ。
 又。大。江。親。兵。衛。の。船。前。漕。着。き。若。們。午。麼。那。里。の。船。を。回。へ。紀。二。六。あ。る。て。舳。
 頭。立。出。う。ち。向。ひ。て。是。が。安。房。の。稻。村。も。浪。花。赴。武。家。の。船。中。殊。る。ふ。の。と。報。る。を。四。
 九。二。郎。少。あ。む。安。房。の。稻。村。と。い。ふ。れ。原。來。里。見。の。家。臣。を。む。非。除。誰。殿。の。船。中。あ。れ。水。路。
 る。と。も。他。領。の。犯。し。て。送。け。浪。花。赴。其。地。々。の。城。王。地。頭。へ。通。達。し。て。路。を。借。
 る。説。く。ふ。の。そ。の。義。の。艦。心。と。い。ふ。私。の。回。答。を。主。君。並。咱。們。の。姓。名。所。役。の。義。は。れ。る。
 と。這。船。中。の。人。數。舳。櫓。の。多。寡。東。西。展。檢。し。案。内。を。せ。と。權。威。を。示。し。と。言。向。る。聲。
 苛。め。鐵。猫。の。綱。携。り。と。船。中。乗。移。れ。夥。兵。も。續。て。舳。櫓。へ。相。入。ら。せ。程。代。四。郎。も。立。

い。て。制。も。止。ま。る。高。々。と。役。義。を。安。理。不。盡。る。言。果。べ。う。の。あ。れ。親。兵。衛。と。照。文。只。得。
 夥。兵。を。從。て。出。俱。の。後。倉。在。の。登。時。照。文。四九二郎。うち。向。ひ。て。人。々。且。鎮。り。あ。酒。家。の。
 安。房。の。里。見。の。家。臣。登。崎。十。一。郎。照。文。と。喚。做。を。着。せ。い。今。番。所。要。の。義。の。浪。華。赴。渡。
 海。の。船。風。雨。の。縁。で。這。港。口。權。且。鐵。猫。兒。を。宿。老。の。疑。る。者。あ。ら。う。と。名。生。る。と。所。で。
 四九二郎。眼。を。睜。り。聲。苛。立。て。非。如。里。見。の。家。臣。で。も。戰。國。割。据。の。世。に。生。れ。て。逆。旅。の。常。例。
 ある。と。知。る。と。前。の。い。ひ。と。さ。う。外。の。藩。の。陪。臣。封。疆。と。踰。て。遠。く。他。郷。赴。其。地。々。を。領。主。と。告。て。
 路。を。借。る。を。説。く。ふ。の。そ。の。義。の。艦。心。と。い。ふ。私。の。回。答。を。主。君。並。咱。們。の。姓。名。所。役。の。義。は。れ。る。
 友。の。と。い。ふ。人。と。海。賊。緝。捕。の。君。命。を。京。で。點。檢。せ。る。も。あ。ら。う。我。等。の。罪。免。れ。ら。れ。今。觀。面。行。
 裏。と。皆。啓。し。て。虛。実。を。知。ん。其。里。退。き。と。皇。家。の。刀。の。反。打。ち。十。と。抗。て。説。き。親。兵。衛。冷。笑。て。
 出。て。四九二郎。打。向。ひ。て。噫。咻。和。主。誰。と。問。せ。も。果。て。京。と。疾。視。て。原。來。這。奴。の。寐。惚。を。御。當。ふ。
 具。名。告。る。我。當。國。渥。美。の。郡。領。鄰。尾。判。官。伊。辺。主。の。兵。頭。設。良。四九二郎。緩。丑。る。を。と。め。

忘れぬ龍児を病者おぼせども乳臭耗る小猴子の敵多ふ足る退れぬと敵國
 犯暴く罵れる親兵衛謀々氣色を噫物々自負廣言和主も武家仕へ武士の
 作法知りん今や割据の世も縣驛山川海濱皆官道なれ約莫舟車の通處往
 きて何人おぼせども里あえやまれば諸侯者遠邑他郷悉敵あり攻敷きく欲する時
 間多國主告て路を借る軍兵を遣ふ先例あり是戰國の作法を咱們的然類あむ今
 船中在る人の數主僕都て九十許各丹も大半の篙工舵師と行擔を謀る夫役の僅二
 領の甲冑と二條の鎗とそれより前鐵砲の長兵神番と一箇も載れば非如陸路と走るもの
 疑ひあらず況渡海の船も四五百鐵猫を宿あて分めて船擔を解啓んといふるるなり和
 主の咱們を誰と思ふ安房の重臣も名もあは八犬吉隨一人大江親兵衛仁を知り少年とく侮
 りて理不盡の義及れ敵多ふ事本事とて頼竹復一の勢ひ猛く臂近る巨鎗を
 り掖とせ雨多拭て眉上高く振抗れ驚慌る四九二郎隊の兵毎も共侶憶を撲地と跪て

心平

戦れるも抗て武様も苦いおぼせども叫ぶ親兵衛呵々といふて鐵猫と側小窓に
 けり登時設良四九二郎の拵下を胸を稍鎮め恭く親兵衛の向ひ額を撞く人うちあはる
 けり鬼神不測の君の力技術五郎おぼせどもそれより定目今仰の趣理の當然ゆゑも事何
 せん在下の津海賊を穿殺す糾を職役多し遠船何あやえ知れと稟事多し罪免
 べし願ふ上陸做りある奥郡多寡君の城光臨あり候とて告せぬ在下の職役は
 多し願ふ口説き後方跪半隊兵多しとて只願請を已まり親兵衛熟く所を照
 文とて登時主事れりむ那議を思ひ多し請れて影護を求むれりと思ひ酒家
 中を該るも正使多し一霎時も船を離れず和殿の燒雪共侶の親兵衛當を從へん這
 人々案内の件城赴て箇様々お告ぐ倒後安んずる照文點頭てその義の
 愚意も相同し左も右も追風とぬえ又見消く遠處を為義も候て存る非如里れ

こゝろ、あつちう
 老々、這方の船中漕近々、飲ちを程は高工夫役們へ欲びて一向長霖を東西賣る船の夢ふども
 と
 なるものなり。今日偶然の日和まれ、吁好東西の來つる多沙飲史醴上頓史濁酒もちとを
 ばさる。で且一勢ひ漏るるの中、西三個の高工夫役も當て鳴くと連りふ件の船と目を親
 兵衛らちして遽く後倉を出て衆人を制しやう若們まで大胆する。遂に四國九州の港口を海
 賊折々毒某ものと泊船客旅客を酔倒して金銀船檐をわん涯り奪取すると風聲あり
 まよ忘れ最不覺之鳥辭を叱れ、高工們的跪して仰ぐ人にも琉石をぶると不良の毎も
 いひね浪華津より這方東也も及ぶといひ一日目のさぬ泊船の徒然か人我中堪を折る僕木
 一碗の酒は沽き喫い各身錢を貰ふのも刀祢們史を稟さる最憚り言とまが波の下ある
 あれ我々よく知れらる閣下ねれ口解を親無衛冷笑て坐私多と云ふ哉若們も日本こ
 び飯飽をも喫ちる事餘食を食ふぞ危近々と我問答多と饒さを國情の檢一折
 船中の進退我若們は及ぶ事も事な甚て利害を知用心いふあり。若們我及及名各心と思惟よ

昔の如く此荒湊に船二艘あり。然るに那舟經紀が遙々漕りて來るとも何ぞの錢なる
 人は疑ふに足らざるや。或は又那經紀の宿錨の客船を賣るものとて澳に釣き蟹家舟で日毎
 買ふも少くもといふにあらざるや。都會敏系花の海濱で樂みする釣舟の酒を沽ひ茶を求め
 錢を使ふもさう然る遊民の如くは只生活する漁者が好茶を求め酒館の錢を費まうや
 人々這を思ひ那を思へ買ふるものとて費用を推禁めて饒舌もあらざれば高工夫役の今
 亦復望を失いて俱に親兵衛を恨めども勢ひ争ふとて送か面を注ぐ齊一嘆息するは
 當下件の船經紀の既漕きさうける酒の沽れ親兵衛が利害を論して衆人を制するより知
 らず腹へ立ち争ふと益々と思ひて咳きさう船を合直して漕きんとせし程に近き那一艘の
 泊船する登高一海がやうと喚きて擔主圖舫皆共侶あるや茶碗と出て或醴濁酒或
 煎茶多粉團と已に自然なる好ま儘に買ふまれば船經紀の頭を掉て左右を賣るに否
 剛才那裏の船中よりそれよと所を尋ねや咱們の酒と毒茶申て人を酔倒せよと云ふをさうし酒を

え。後悔する。怒を程。陽聲を大家。听つ。ち。笑ひて。その。愛。酒。が。酔。れ。喫。とも。甲。斐。多。る。を。一。碗。二。碗。を。酔。く。前後。と。知。事。中。へ。湯。を。浴。せ。身。泉。を。好。好。珍。味。を。結。ね。く。い。を。船。經。紀。們。も。ち。笑。ひ。て。不。濁。酒。を。多。く。醴。煎。茶。園。子。も。毒。あ。る。飲。測。り。か。多。く。小。心。を。食。れ。と。ち。戲。れ。人。々。の。茶。碗。を。漸。次。受。合。て。或。醴。濁。酒。を。入。れ。師。入。進。與。ま。ま。大。家。も。ち。受。合。て。一。口。喫。て。妙。なる。と。言。て。百。會。を。敲。く。も。ち。舌。を。鳴。き。下。頓。上。頓。俱。船。經。紀。も。ち。對。て。听。ね。一。向。の。長。霖。を。乾。魚。も。黑。菜。も。竭。れ。朝。夕。飯。の。合。菜。中。の。味。噌。よ。り。外。へ。な。り。一。向。の。醴。濁。酒。を。命。を。延。き。良。其。多。く。何。人。の。鳩。毒。あ。り。も。ち。我。も。一。碗。又。一。碗。と。由。系。る。上。頓。の。章。魚。の。脚。炙。蛤。已。か。心。飲。み。啖。下。頓。も。亦。醴。園。子。煎。茶。を。各。錢。と。差。易。の。鄙。語。の。後。餅。龍。の。王。宮。の。數。人。の。款。待。の。地。や。あ。り。利。市。三。倍。も。面。前。賣。買。越。え。暇。の。姑。且。時。を。程。り。有。條。り。一。程。の。這。方。の。船。も。管。工。夫。役。們。の。程。遠。く。泊。船。を。飲。食。の。中。に。仍。藏。と。し。休。船。を。親。兵。衛。の。伴。若。黨。の。其。の。憑。心。若。黨。も。船。公。那。毎。と。義。く。思。ひ。居。

痴情異る。一談。及。び。美。引。て。俱。中。倉。へ。赴。て。親。兵。衛。の。告。す。那。齊。前。面。の。船。を。船。經。紀。の。と。事。茶。蔴。渡。醴。の。へ。茶。蔴。園。子。を。啖。へ。毫。も。恙。な。し。一。向。の。長。霖。を。飯。よ。り。外。へ。東。西。も。な。れ。那。の。買。啖。い。い。で。饒。者。の。が。賤。卑。奴。才。の。癖。を。恨。て。水。路。の。押。し。身。を。入。れ。い。い。て。爲。宜。か。る。べ。う。の。や。を。本。草。の。と。呬。言。か。し。口。鮮。け。を。親。兵。衛。听。て。思。考。現。船。公。們。の。今。觀。面。相。て。疑。の。釋。酒。を。嚙。せ。管。工。們。が。怨。て。渡。海。の。障。り。ある。と。あ。る。が。狹。窄。の。匹。夫。も。志。を。奪。ひ。た。波。の。上。を。進。退。他。們。の。憑。れ。饒。者。不。如。尋。思。あ。る。遂。に。那。意。の。儘。を。大。家。より。所。て。並。て。心。花。開。く。飲。み。涯。る。り。既。に。舟。經。紀。を。前。面。の。船。の。賣。買。を。と。し。潛。去。き。や。程。の。這。方。の。船。も。管。工。夫。役。們。の。齊。一。掌。拍。鳴。し。て。船。經。紀。兒。酒。活。ん。船。と。も。ち。招。く。舟。經。紀。の。冷。笑。ひ。て。不。と。目。今。又。あ。る。ら。咱。們。が。酒。の。毒。の。や。ある。と。疑。ひ。を。買。合。て。不。賣。と。頭。を。掉。て。又。潛。去。れ。と。船。を。早。む。と。大。家。慌。る。聲。も。齊。一。咽。還。ら。し。て。論。ま。う。衛。此。の。差。錯。を。い。れ。と。あ。り。か。那。里。の。船。を。買。ひ。

技と世と渡る奸賊と知る足れり始とて我とる。あ疑いある。小心届て底深く謀じ
たる悔。然るも我衆人の安危誰何とる。船の方。船公。高工。舵師。夫役。雑色
伴。當甲。都て二十餘名。或醴濁酒。三碗。三碗。喫。錢を。出。て。還。茶碗。残。醴を
指。と。も。ち。仰。て。吸。茶。と。も。ち。あり。程。大家。猛。眼。と。睜。俱。噓。口。中。より。流。る。涎。水。
と。齊。と。撞。と。仰。反。仆。死。活。も。知。さ。り。け。親。兵。衛。是。を。觀。て。今。救。索。暇。な。し。且。海。賊。們。
多。と。思。ふ。と。見。網。あ。る。と。尋。思。と。共。侶。醉。倒。れ。る。面。色。を。脚。を。伸。中。倉。の。柱。を。凭。
多。と。張。て。仰。反。す。當。下。一。個。の。舟。經。紀。衣。領。を。夾。一。叫。子。と。合。わ。て。吹。鳴。泊。船。を。撞。
杭。と。頭。れ。強。人。毎。甲。乙。約。莫。十。餘。名。鎗。を。解。知。と。船。這。方。漕。き。け。并。中。頭。領。と。か。り。
一。個。の。老。賊。多。角。弓。と。推。舟。經。紀。打。扮。る。兩。個。の。小。嘯。囉。向。て。豫。謀。合。せ。ど。こ。這。
個。船。の。安。房。の。里。見。京。師。遣。使。休。せ。數。千。兩。の。金。銀。と。載。さ。り。と。知。り。後。と。跟。左。右。
多。謀。り。て。既。休。休。十二。分。造。化。皆。若。們。皆。掙。と。る。那。猴。子。奴。の。年。小。似。げ。る。才。蘭。て。脅。力。も

亦。九。庸。を。ね。は。た。の。敵。多。あ。る。備。那。奴。の。人。柄。を。作。と。飲。食。の。射。て。倒。え。思。ひ。那。奴。
漏。れ。像。の。如。く。醉。倒。れ。る。首。尾。妙。之。快。航。担。運。提。と。り。て。兩。個。の。小。嘯。囉。鼻。蠢。め。り。合。
笑。て。然。後。生。奴。始。り。疑。て。事。成。る。多。あ。り。辛。く。段。と。旋。と。稍。這。田。地。の。境。大。功。の。
誰。か。讓。る。多。分。賊。の。心。と。割。と。さ。め。か。卒。然。と。先。馳。先。家。續。と。誘。負。重。見。の。船。
乗。程。自。餘。の。海。賊。十。餘。名。身。を。跳。と。推。續。船。臥。る。當。主。役。們。を。蹂。躪。れ。る。知。る。金。
必。中。倉。の。船。底。と。あ。む。む。と。罵。と。齊。網。入。船。廳。多。親。兵。衛。岸。破。と。身。起。と。耳。
貫。聲。高。多。這。盜。賊。們。何。索。來。る。下。司。と。鈍。謀。れ。る。仁。と。倒。と。天。訓。思。知。と。罵。
る。勢。四。下。と。拂。と。背。組。む。小。嘯。囉。兩。個。を。左。右。の。掖。肩。被。と。聲。と。投。と。腰。骨。打。折。れ。
云。と。平。張。と。あ。那。兩。個。の。假。經。紀。一。個。の。水。鬼。柄。杓。九。郎。又。一。個。の。難。渡。破。船。と。吸。做。火。
家。の。小。頭。領。と。衆。賊。齊。一。胆。と。洗。と。原。來。那。奴。醒。と。欲。非。如。萬。夫。の。勇。あり。一。個。の。敵。を。怯。れ。
と。多。勢。と。憑。と。步。場。と。掃。と。短。鎗。長。杆。朴。刀。六。七。尺。多。細。楫。を。振。内。め。と。較。と。競。と。親。兵。



八十八

四

八十八

四

他年来船とて家おぼる海賊多し千仞の底も出沒者水路の掙は自由又親兵衛は六
穂以来太山成長りし水手熟れ船中の掙は自由なるを克と取るを易とねる毫も掙
を挑む隨船揺動を傾て踏脚一霎時も定まらず竟る扁舟と踏覆と組る儘甲乙
俱海火と隊せり然れど親兵衛は船の内へ陸へ進退不如意をける既水中の
掙はゆき這老海賊及びも中を脩羅五郎の折す二分の力なる有奉と掙き
腰帶も短刀と抜半逆も合て親兵衛は脇腹に刺串んとしけ親兵衛も其意
左も不楚と捉禁て刃を奪合も其れも水中氣身も稍疲れて表るるをさくさくとい
修羅五郎は親兵衛と水底へ推沈め推溺らる捉れ腕を解んとする親兵衛は身
飄の像へ被入れても彼上へ浮出のまひられ幸ひ死なずの正二期の大厄難最危
に角は浩処姥雪代四郎與保の僑昭文們と共に奥郡へ中途中途事ありければ顛末
快親兵衛も報も思て獨先とてかき束あけ苛子崎の馬頭よりきれば岸を距ると三所許滄

滄洋中親兵衛は一個の大漢と逢ふ捉りて放さず浮沈を争ふ光景相る危に生
滅の海面呼吸する代四郎吐きと驚き水際へ敷系に蟹家舟のり乗る楫抜合
是水と極み漕出も本事へ船と世と渡り昔の修煉衰を瞬息間漕着て切解く
袴と衣さる多船脱捨て只脇捕の短刀と犢鼻褌を踏ま折し忽地聲をゆりて大江主
大江主代四郎助創仕るるも緩ゆると咽る身を跳りて海火と蜚入て表るおぼる敵の
後方へ泗に寄る脩羅五郎は左右の脚を掙と寄せと連り蹴返して代四郎のめもせを
片脚を捉引きて右も短刀抜持て九の命の邊を愚熟と刺を刺れて弱敵の頭髪を左も
捕り仰反と首と其捕れ海水忽地韓紅の波の揺々權具錦を流さ似るけり登時又
代四郎は親兵衛を扶け泗へ遙流れ蟹家舟と趕住めて脩羅五郎の首を船へ投入て然
而親兵衛を水中より拾ふ共侶も船を乗りあけ介程親兵衛は思ひより代四郎の
幫助も勁敵亡び深く掙身も恙なく代四郎もち向て更今水中の掙は七旬程遠く

老兵と思れ。咱們的御前筒様々。悠々の情由有て衆人都て毒酒。小れ刺さる老賊。金一箱竊れ。透さば扁舟。紅欄で挑む勢。舟覆りて。俱水中。遂に我酒法疎け。首級を引きて。這奴が為小苦。ゆれ僅。那な捉林。我身刃を受。寒。せ。術より。か。幸ひ。潮水。吞。身。亦。浮。折。更。極。れ。必。是。伏。姫。上。神。祐。擁。護。あ。る。ん。倭。幸。ひ。有。る。老。賊。竊。り。て。走。り。那。一。箱。の。金。舟。覆。り。て。海。論。加。旃。我。腰。刀。小。月。形。老。侯。の。賜。の。多。開。水。中。迷。り。今。腰。残。る。這。個。短。刀。の。恰。と。云。恰。の。一。期。不。覺。怒。活。申。斐。竟。罪。重。の。い。ふ。ま。を。肺。を。悔。の。半。遍。早。左。右。さ。思。い。難。る。稠。の。難。義。の。嘆。息。の。外。を。り。代。四。郎。所。に。慰。め。て。開。安。ら。ぬ。さ。せ。術。の。誇。貌。舳。頭。立。て。眺。目。を。西。復。り。那。扁。舟。流。れ。故。の。外。在。り。代。四。郎。見。る。好。と。獨。語。身。を。跳。り。て。二。三。海。入。り。安。危。の。後。甚。麼。を。開。亦。復。下。の。回。解。合。を。聴。ね。か。

南總里見八犬傳第九輯卷之二十二終

